

ネット使用がソーシャルサポートに与える影響

— 高校生のツール別ネット使用での検討—

○安藤玲子

高比良美詠子

(お茶の水女子大学人間文化研究科) (メディア教育開発センター)

キーワード: ツール別ネット使用、ソーシャルサポート、因果関係、高校生

問 題

学校現場や家庭へのインターネット(以後、ネット)の普及に伴い、子どもがネットに触れる機会が増大している。それに伴い、子どもの心理面や社会的関係へのネット使用の影響についての関心が高まっている。

成人を対象とした従来の研究では、ネット使用が攻撃性や抑うつ、孤独感などへ悪影響を持つと指摘する研究がある一方で(Wallace, 1999; Kraut et al., 1998)、逆に孤独感が減少し、ソーシャルサポートが高まるといったポジティブな効果を指摘する研究もある(Shaw & Gant, 2002)。このように、ネット使用の心理面や社会的関係への影響に関する成人対象の研究は近年増加しているが、一致した見解はみられていない。

一方、子どもを対象とした研究では、悪影響に関してはいくつかの研究がある。例えば、高比良ら(2004)は、敵意などの攻撃性の一部が中学生のネット使用で悪化することを指摘している。しかし、子どもを対象とした研究は、まだ全体として少なく、特に、ソーシャルサポートなどの社会的関係への影響についての研究は乏しい。ネットは、子どもの世界に広く普及し、有用なコミュニケーションツールとして使われ始めているため、子どもの社会的関係に何らかの影響を与える可能性があり、検討は急務と考えられる。

子どものネット使用とソーシャルサポートに関する研究では、病気や問題を抱える子どものサポートグループなどでの効果を示すものは比較的あった(例えば Tichon & Yellowlees, 2003)。一方、一般の子どもの日常的なネット使用を扱った研究は乏しい。そのような中で、安藤ら(2005)は中学生対象のパネル研究を行い、ネット使用が友人から受けるソーシャルサポートを増加させる効果を持つことを指摘している。この研究では、友人に関して、学校や塾などの対面で知り合った友人(以後、オフの友人)と、ネット上で知り合った友人(以後、ネット友人)とを異なるサポート源として検討し、ネット使用が特にネット友人からのソーシャルサポートを引き出すことに有効であると指摘している。

そこで、本研究では、この研究を踏まえて、より発達段階の高い高校生を対象としてネット使用がネット友人とオフの友人から受けるソーシャルサポートにどのような影響を持つのかについて検討する。なお、本研究では、安藤ら(2005)の用いたソーシャルサポートの項目に、道具的サポート項目を更に追加して検討した。情報のやりとりが容易なネットでは道具的サポートをより得やすいのではないかと考えたからである。

また、本研究ではネット使用に関してツール別の分析結果を報告した。なお、使用目的別の分析結果に関しては、今年度の社会心理学会で報告された(安藤ら, 2006)。

方 法

対象者

2 波のパネル調査に参加した関東の私立高校 3 校の 1 年生 466 名(男子 284 名、女子 182 名)を分析対象とした。

調査項目

ツール別ネット使用量 1)Eメール、2)BBS やメーリングリストへの投稿、3)Web ページやBBS の閲覧、4)Web ページの作成、5)チャット、6)オンラインゲームなどの各ツールについて、1 週間の総使用時間を「やっていない」から「3 時間以上」の 7 件法で尋ねた。

ソーシャルサポート 身近な他者からの情緒的サポートを主に測定する学生用ソーシャルサポート尺度(久田ら, 1989)から高校生が経験すると考えられる 13 項目に、勉強で生じた疑問への援助などの道具的サポート項目 5 項目を追加して 18 項目を用いた。そして、「ネット友人、オフの友人」が、自分に行ってくれていると思うそれぞれのサポートの頻度を「まったくない」から「よくある」までの 6 件法で尋ねた。

結 果

因果関係の分析方法

ネット使用がソーシャルサポートに与える影響について、図1の交差遅れ効果モデルを用いて共分散構造分析で検討した。

このモデルで、例えば1時点目の E メールの使用量から、2時点目のネット友人からのソーシャルサポートへのパス a に有意な正の効果が示された場合、Eメールの使用が多いと、ネット友人からのソーシャルサポートが増加するという因果関係が推定できる。

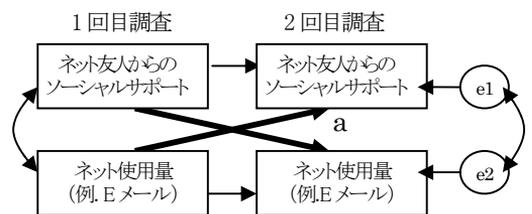


図1 交差遅れ効果モデル

因果関係

ネット使用がソーシャルサポートに与える影響 図1のモデルで分析したところ、次のような結果が得られた。

まず、ネット友人では、Eメール以外のネットツールの使用量とネット使用全体から、ソーシャルサポートへのポジティブな効果が示された。一方、オフの友人では、Eメールの使用量から、ソーシャルサポートに対し、ネガティブな影響が示された(表1参照)。

表1 ツール別ネット使用からソーシャルサポートへの影響

	ソーシャルサポート	
	ネット友人	オフの友人
ツール別ネット使用全体	.23**	-.07†
Eメール		-.13**
BBS、メーリングリスト投稿	.22**	
Web、BBS閲覧	.16**	
Webページ作成	.13**	
チャット	.11**	
オンラインゲーム	.15**	

注:ここでは、有意傾向以上の効果がみられた場合の数値のみを示した。*** $p < .001$, ** $p < .01$, † $p < .10$

考 察

本研究の結果、高校生では、ネット使用はネット友人とオフの友人からのソーシャルサポートに異なる影響を持ち、影響を持つネットツールも異なる可能性が示された。

まず、ネット友人についてみてみると、特にBBSやメーリングリストへの投稿が多い場合にソーシャルサポートが増えている。ネット友人からのソーシャルサポートをより多く得るには、ネット上のコミュニティーサイトに積極的に参加する必要がある。したがって、ネット上での発言が多いほど、多くのコメントが得られ、ソーシャルサポートを受けているという実感が高まるというこの結果は理解しやすい。ただ、ネット友人からのソーシャルサポートを高めていたネットツールは、いずれも不特定多数との交流を目的としたものであり、よりプライベートなツールであるEメールからは何ら効果が見られないことから、次の点が今後の課題として考えられる。

第一に、本研究で測られたネット友人が高校生にとってどのような存在だったのかについてである。筆者らは「友人」という言葉を使うことによって、友人というカテゴリーに入る特定の親しい他者からのソーシャルサポートが回答されると想定していた。一般に、BBS・メーリングリスト、チャットなどでは、よく発言する常連がいるため、自分のコメントに良くフィードバックをつけてくれる複数の「特定」の相手を友人として認識するようになって考えられるが、初対面やさほど親しくない知り合い程度の人からのサポートが結果に含まれる可能性は否定できない。高校生のネット友人に関しての考え方を含め、より詳細な検討が必要であろう。また、ネット上での発言の多さは、他者からのサポートを引き出すだけでなく、他者へのサポートも積極的にしている

可能性がある。今後は他者に与えるソーシャルサポートに関しても検討する必要がある。

次に、オフの友人について見てみると、Eメールの使用が多いと、オフの友人からのソーシャルサポートが減少するという影響が見られた。この結果は、使用目的別の分析(安藤ら, 2006)と併せて考える必要がありそうである。使用目的別の分析では、友人作りやネット友人とのやり取りにネットを使うほど、オフの友人からのソーシャルサポートが減少していた。すなわちEメールをネット上の対人関係に積極的に使うことがオフの友人からのソーシャルサポートに影響を及ぼすといえそうである。Eメールはネットツールの中では主に特定の相手との交流を目的とし、より個人的な事柄を語るのに有用だが、1人の相手に費やす時間と労力は大きくなる。そのため、ネット友人との関係にEメールを使うほど、ネット友人とより親密になるが、一方で、オフの友人との関係に費やす資源が減少し、関係が希薄化するのかもしれない。

また、Eメールがネット友人からのソーシャルサポートに効果を持たなかったのは、一つの投稿に対して複数の相手からコメントを得られる他ツールに比べるとEメールは効率が悪いいため、受けているソーシャルサポートを頻度として測定した本研究では、効果が結果に反映され難かったのかもしれない。今後、より詳細な検討が必要な点である。

参考文献

- 安藤玲子・高比良美詠子・坂元章 2005 インターネット使用が中学生の孤独感・ソーシャルサポートに与える影響 パーソナリティ研究, 14, 69-79.
- 安藤玲子・高比良美詠子・坂元章 2006 ネット使用が高校生のソーシャルサポートに与える影響 日本社会心理学会第47回大会 発表論文集, 516-517.
- Kraut, et al. 1998 Internet paradox: A social technology that reduces social involvement and psychological well-being? *American Psychologist*, 53, 1017-1031.
- 久田満・箕口雅博・千田茂博 1989 学生用ソーシャル・サポート尺度作成の試み(1) 日本社会心理学会第30回大会発表論文集, 143-144
- Shaw, L. H., Gant, L. M. 2002 In defense of the Internet: The relationship between Internet communication and depression, loneliness, self-esteem, and perceived social support. *CyberPsychology & Behavior*, 5, 157-171.
- 高比良美詠子・安藤玲子・坂元章 2004 ネット使用が中学生のネガティブ感情および攻撃性に与える影響(1)—ツール別ネット使用のネガティブ効果— 日本健康心理学会第17回大会発表論文集, 164-165.
- Tichon, J., & Yellowlees, P. 2003 Internet social support for children and adolescents. *Journal of Telemedicine & Telecare*, 9, 238-240.
- Wallace, P. 1999 *The psychology of the Internet*. Cambridge, UK; Cambridge University Press.